

# 令和元年度栄養教諭研究大会

令和元年8月28日(水)蒲郡市民会館にて研究大会が開催されました。

## 教育講演会

### 演題「主体的・対話的で深い学びとしての食育」

講師 武庫川女子大学 教育学部 教育学科 准教授 藤本勇二 氏

主体的・対話的で深い学びとしての食育の実践という視点で、授業の発問や教材の提示の仕方を、いくつかの具体例を用い、模擬授業方式で分かりやすく示していただきました。子どものもつ知識や経験から気付かせ、主体性を育むような授業展開の仕方が大変参考になりました。

また、これから学校で食育を進めていくためには、栄養教諭は、カリキュラムを理解して、食育を扱う守備範囲を広げ、学級担任等と連携していく「コーディネート力」をいっそう高めていく必要があることを学びました。



#### <ご講演を拝聴しての感想>

子どもたちのもっている「学びたい・知りたい」という気持ちを引き出し、主体的に考えられるように、発問や資料提示の仕方を工夫することが、深い学びにつながるがよく分かりました。題材選びの守備範囲を広げるためのアンテナを高くし、情報を仕入れるように心がけて、題材の提示の切り口を探っていきたいと思います。

授業の内容や重要性を「理解」しても、「実行」できなければいけないということをお聞きし、その通りだと思いました。授業の中で、子どもが「どうしたらいいか」と自分事として考え、友だちと対話的に「〇〇したらいいじゃん」とアドバイスし合えるようにすることで、「これならできるかも」「やってみようかな」と心を動かし実行に移せるように促していくことが大切だと思いました。子どもが抱えている疑問や問題に寄り添った指導を行っていきたいです。そのためにも、自分自身が主体的に学ぶ姿勢をもち、視野を広げ、食に関するさまざまな引き出しを増やすことを忘れないようにしながら、担任の先生方との連携を図っていきたいです。

## 展示・ポスターセッション

研究発表した中島地区、豊田みよし地区と豊橋市の食育の取組や教材の紹介、本協議会が平成30年度に作成したCD教材「あいちを食べよう」等の展示がホールのラウンジで行われました。熱心に展示物を見学し、興味深く質疑応答している会員の姿が見られ、会員相互の交流や学び合いの場となりました。



## 式典

愛知県教育委員会 保健体育課 課長 木村誠様をはじめ、愛知県小中学校長会、公益財団法人愛知県学校給食会、愛知県高等学校給食研究協議会、愛知県特別支援学校長会など、多くのご来賓の皆様にお越しいただき、ご祝辞を頂戴しました。



## 地区別研究発表

### 中島地区（稲沢市）

「食に関心を持ち、人間性豊かで健康な生活を送る子の育成」  
—野菜摂取に着目した朝食指導を通して—

学校の実態に合わせ、教科と特別活動を関連付けた小学生4年生から中学生までの継続的な指導を通して、野菜を取り入れたバランスのよい朝食を摂ることの大切さを見守る生徒だけでなく家庭にも啓発する取組を発表しました。



### 豊田みよし地区（みよし市）

「栄養のバランスを意識して朝食を食べる子の育成」  
—教育活動全体で多面的に工夫し、

繰り返し行う食に関する指導を通して—

中学校3年間を通して、教科だけでなく、いろいろな場面を使った朝食指導を、養護教諭、担任等とともに学校全体で地域・家庭と連携して行った取組を発表しました。



## 指導講評

### 愛知県教育委員会 保健体育課 主査 稲留雄一 様

研究を進めていく上で、アンケート結果の数値だけではなく、その背景や原因を捉えることが、手だてを絞り込んでいくために大切である。原因を探るためには、担任との連携が必要となる。なぜそうなっているのかを考えることで、必然的に「なぜ」に働きかける手だてが見えてくる。また適正な評価を行うためには、研究構想時に、その仮説や手だては検証可能かまで考えることが必要であることなどを、ご指導いただきました。

これからの食に関する指導は、学級担任が給食の時間等を活用して、短時間でも継続的・系統的な指導を行っていくことが重要で、ますます校内での連携が必要になる。そのために、栄養教諭は、学級担任が食に関する指導の重要性を理解し、実施したくなるように、「発信力」を高めていかなければならないと、ご示唆いただきました。

みんなができる、みんなのできる、無理なくできる、ずっとできる食育  
～1人の100歩から100人の1歩へ～  
(栄養教諭) (担任)